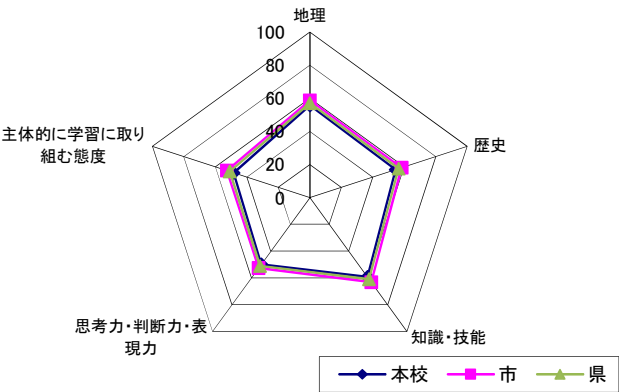


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.7	58.7	57.0
	歴史	54.6	58.3	56.4
観点	知識・技能	59.3	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	49.8	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	48.4	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の姿	平均正答率は市の平均を2.3p、県の平均を0.4p下回っている。 ○世界のさまざまな国の特徴についてよく理解をしている。 ●緯線と経線が直角に交わった地図の特徴についての理解をもとに地図を読み取るのが苦手な生徒が多い。	・授業等で、さまざまな世界地図の目的や長所と短所、使用法について整理して理解を深め、さらに定着するよう指導していく。
日本の姿	平均正答率は市の平均を3.8p、県の平均を0.4p下回っている。 ○日本の排他的経済水域について、資料を活用して判断することができる。 ●日本の都道府県について理解がやや不十分である。	・授業で、日本の諸地域を学習する際、それぞれの地域を各テーマごとに整理して理解を深め、更に定着していくように指導していく。
世界各地の人々の生活と環境	平均正答率は市の平均を4.3p、県の平均を1.2p下回っている。 ○世界のさまざまな宗教について、資料に着目して考察できる生徒が多い。 ●世界各地の気候について、雨温図をもとに考察することが苦手な生徒が多い。	・地理分野の学習に際し、それぞれの地域の気候帯の特徴を、雨温図をもとに考えられるよう指導する。
世界の諸地域	平均正答率は市の平均を2.1p、県の平均を1.9p下回っている。 ○アフリカ州のモノカルチャー経済の課題について、その課題を正しく理解し、原因や根拠づける資料を判断することができている。 ●複数の資料をもとに考察することを苦手とする生徒が多い。	・教科書や資料集、ICT教材を使用するとともに、授業において複数の資料を提示し、それぞれの資料を比較したり読み取ったことを説明したりする力の定着を図る。・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。
縄文時代～古墳時代	平均正答率は市の平均を3.9p、県の平均を1.5p下回っている。 ○古代文明の特色について理解している。 ●卑弥呼についての理解がやや不十分な生徒が多い。	・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。
飛鳥時代～平安時代	平均正答率は市の平均を5p、県の平均を3.2p下回っている。 ○奈良時代の社会の変化や人々の暮らしについて資料をもとに考え、判断できる生徒が多い。 ●聖徳太子が目指した政治についての理解がやや不十分な生徒が多い。	・授業において、基礎的・基本的な事項に関する小テストを実施するなど繰り返し学習を行い用語の定着を図る。
中世の日本	平均正答率は市の平均を2.5p、県の平均を0.9p下回っている。 ●武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、表現することが苦手な生徒が多い。 ●ヨーロッパの農業について、資料をもとに考察するが苦手な生徒が多い。	・教科書や資料集、ICT教材を使用するとともに、授業において複数の資料を提示し、それぞれの資料を比較したり読み取ったことを説明したりする力の定着を図る。・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。